

森の風の記憶

諸塚村観光協会「まちむら応縁倶楽部」

諸塚の四季 Vol. 56「幸せの指標」

通巻 第56号

平成23年 2月25日発行

目次

やま学校日記 2
エコツアー第102回

諸塚を食べる 4
しいたけ栽培の歴史

NEWS 5
販売所のお引っ越し

イベント情報 6
日本一早い！山開き

～樫の森の歳時記～



(フクジュソウ 紋原)

全村森林公園 諸塚
百影の森づくり

諸塚村

日本のGDPを中国が抜いたらしい。13億の民と膨大な資源を抱える国ですから、それも時間の問題だったのでしょうか、メディアでは日本が衰退したというメッセージが流されています。しかし、冷静に考えると、モノがあふれるこの時代に、貨幣が流通する量の物差しだけで競争するのも、少し変です。

私がいつか行ってみたい国にブータンがあります。そこは国民総生産（Gross National Product）ならぬ、国民総幸福量（Gross National Happiness）を目標としています。幸せの量というと抽象的ですが、①持続可能で公平な経済開発②自然環境保護③文化財保護④良い統治の4つの柱を軸に、心理的幸福、健康、教育、文化、環境、コミュニティなどの9要素を調査して指数化するようです。

全体主義的、個人の自由の規制であるなど批判的な意見もありますが、国土の70%を占める森林は保護され、教育費は無償、学校の制服も民族衣装が支給されるそうです。中央集権でなく、地域分権も進んでいるようです。

私自身は、2004年の諸塚村での日本建築学会小委員会でのO大学のK教授がブータン研究の発表をされたときに、その存在を知りました。また来村された政府系金融機関のK氏からも「諸塚村は日本のブータンだ」とも言われました。想像するに、諸塚村には古くからの村落共同体が維持され、相互扶助社会の価値観が根強く残るからではないでしょうか。

GDP世界3位の実感のない日本人。お金が経済活動だけのために使われ、人間の生活の視点を失っています。資本主義で豊かになったはずの先進国はもちろん、世界の多くの人には心を病み、社会規範もゆがみ、犯罪が耐えず、暴力と破壊でしか自己主張できない。幸せの量の物差しは、一見難しそうですが、個人の幸福でなく、全体の幸福と考えてはどうでしょう。一人だけの成功と裕福な生活を推奨するより、共同体みんなが一緒に助け合い暮らせる社会を目指す指標。時代は、経済に変わる新しい価値観を必要としています。(矢)

1～2月の出来事

1月3日 諸塚村成人式
「もろっこはうす」初売り

1月4日 観光協会仕事始め
「海幸山幸」初売り

1月15～16日 エコツアー「諸塚でやま学校しよう！」第102回

1月29～30日 戸下神楽

2月5～6日 南川神楽



春を持つ日本のブータン（諸塚村桂）

やま学校日記

第102回エコツアー「諸塚でやま学校しよう！」

平成23年1月15～16日 参加者 4人

平成23年のスタートを飾るエコツアー。この冬でも1～2を争うほどの寒波が到来し、山村の冬の暮らしを、まさに肌で感じる2日間となりました。



今回の講師の甲斐耕平さん
後ろに見えるのが炭焼き窯

手作り竹炭焼きに挑戦ですっ！

はじめに竹割りの作業。十字型のなたを使って、竹を四つ割りにしていきました。その割った竹を、講師の甲斐耕平さん自作の窯に入れて、炭焼きの段階に入る準備をしました。

オリジナルの炭を作ろう！と、竹を割らずに丸まま入れたり、松ぼっくりや竹枝部分を入れてみたりと、出来上がりのイメージを膨らませながら作業を楽しく進めました。窯に蓋をして、早速点火。煙突から濃色の煙が上がり始めたら、さらに煉瓦や鉄板、砂などで窯の中に空気が入らないよう塞ぎました。



竹割り中 十字の特製なた

巨木に圧倒される！！

窯入れ作業終了後は、耕平さんの案内で周辺の散策をして歩きました。塚原神社では、杉やイチイガシの巨木と辺りの静けさにやま学校生は安らぎを覚えたようでした。

散策を終えて、宿泊先へいだの里へ移動しました。入館後すぐに炭に火を熾し、囲炉裏を囲んでお茶休憩をしました。参加者のYさんよりお手製のゆべしをいただきました。味噌がほのかに薫る美味しいゆべしでした。一段落して本日の夕食準備にかかりました。



囲炉裏を囲んで
もろつか鍋！！

やま学校ならではの 交流会も盛り上がりました

午後6時半、甲斐耕平氏より連絡が入り、「焼け具合が良さそうだから、火を落とそうと思う」とのことで、参加者より希望者を連れて甲斐氏宅へ向かいました。到着時には火を落としてありましたが、火落とし作業の説明を受け、明朝の窯出しがより楽しみになってようでした。

いだの里に戻りすぐに交流会を開始。諸塚の恵みと差し入れにいただいた海の幸をしっかりと堪能しながら、参加者のこれまでの経験話や人生観など、やま学校の交流会ならではの談話を十分に楽しめました。



今月のやま学校ごはん

この時期のおいしさを凝縮 もろつか鍋

材 料：肉厚しいたけ・諸塚とうふ（松村豆腐さん）
豆乳入り糸コンニャク（南川加工グループ）
採れたて白菜・チンゲン菜など野菜をたっぷり。

食べ方：やかた婦人のゆずポン酢

セツ山婦人加工グループの柚子こしょうをお好みで！！

【むらの風・まちの風】ことしの11月から諸塚村の各所で活躍中の中山間盛り上げ隊木野さん。東京からご家族で諸塚に移り住んで来られました。諸塚での活動の様子をイ（→）

やま学校日記 2日目 1月16日(日)

朝6時半に起床し、朝食準備と清掃をみんなで進めました。昨晚の鍋で使用した食材で汁ものを作り、やま学校定番の朝食塩さばを囲炉裏で焼き、村内の卵と梅漬けを堪能しました。朝食を済ませると、分担して片づけを行いへいだの里を後に。甲斐耕平さんのお宅へ向かいました。

炭の奏でる心地よい音！！

到着後は昨日に窯入れした竹炭の窯出し作業を行いました。4つ割りにした竹はほぼ全てきれいに仕上がっており、丸ままの竹・松ぼっくりは所々ひびが入ったり割れたりしていましたが、しっかりと形を残して焼き上がっていました。竹の枝はすべてが焼けてしまったようでしたが、竹炭が日光を受け虹色に輝く様子や、炭どおしが当たって「カン！」と鳴る音色にやま学校生は満足した表情で作業を進めていました。

美しい和の色合いのお餅ができました

その後は、餅つき。1升ずつ3種類をつきました。通常の白もちに、きび粉入りの赤色、フツ(よもぎ)入りの緑色。小正月飾り作りも同時に進めながら餅を丸めました。小正月飾りは今回クロモジの木を使って団子を付けました。飾りとして使用した後、つまようじにもできるからとの耕平さんの計らいです。色遣いがシックで落ち着いた飾りが出来上がりました。

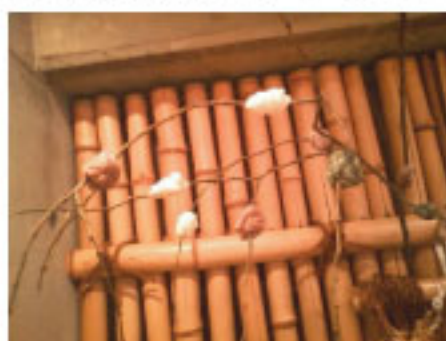
昼食はつきたて餅を食べました。白餅は竹炭で炙ってきたきなこ付け、きび餅にはあんこを入れ、ふつ餅は砂糖しょうゆでいただきました。弾力がありながら柔らかく、風味も豊かなお餅でした。(健)



上手に焼けました！！



いい音が響いてます！ペタン



よい仕上がります。柳もち

むらの声 散策中に会った地元の古老・主一さんのお話し

『昔は「だご正月」と言って、旧暦の15日に小正月飾りを作りよった。そばを石臼で挽いてその粉でだごをつくった。だごは、木の枝にすだれのごと刺した。つげの木で作ると色味がきれいじゃった。だごは、灰の中で蒸し焼きにして食べよった。』

やま学校生の声 参加された皆さんの感想です

★山の生活の豊かさを体験することができ、楽しかったです。次は、他の古民家の時にも参加してみたいです。

☆村の方々のおもてなしの心が素晴らしかったです。ありがとうございました。

★小正月飾りは、餅つきからの制作で、とても楽しかった。

(→つづき) ネット上で公開しています。「宮崎中山間ネット」で検索してみてください。諸塚村役場に派遣された県庁マン(任期はあとわずか!)寺原さんの日記も必見。

うみゃ～なMOROTSUKA ～しいたけ栽培の歴史編～

知ってるようで知らないことばかりなしいたけ。今回は栽培の歴史に迫ります。

みなさんは、諸塚の椎茸を食べたことがありますか？私はこの村に来て、これまでの椎茸(スーパーなどで買っていたもの)は、あれはなんだったんだ？と思うくらい、椎茸って美味しい！と感じました。肉厚で歯ごたえがあって、香りが良く旨みがすごい！！なんととっても、愛情たっぷりに栽培されているからだと思います。

(レポート：諸塚在住9年目。3児のかーちゃん高野さん)

椎茸栽培が行われるようになったのは、江戸時代といわれています。それ以前は山中林野等に自然発生していたものを採取し食していたようです。発祥の地は、高千穂・豊後(大分県)・伊豆(静岡)と諸説あるようです。延岡の有馬藩に伝わる資料によると1614～1692年の間に、高千穂郷からしいたけが上納されていたと記録があります。諸塚村を含む高千穂郷はこの頃にはしいたけの栽培が行われていたのでしょうか。この頃の栽培方法は、原木に鉋目を入れるという方法だったようです。

明治時代の中頃まで自然発生すると考えられていた椎茸。そのなかで愛知県の田中延次郎が、椎茸をはじめとするきのこ類は自然発生するものではなく、カサの裏にあるヒダの間に草木の種子に相当する胞子があり、これによって繁殖する植物の一群であることを強調し、乾椎茸を粉末にしてナタ目を入れた原木に吹き付ける方法を提唱。しかしこの方法では、乾燥椎茸のため胞子の活力は著しく低下、効果はほとんどなかったが、自然栽培法から積極的な人工接種法への大きな進歩となったようです。

明治の末頃、生椎茸の胞子を集めて水に溶きナタ目にすり込むほだ汁法、大正末期にシイタケ菌糸が蔓延している完熟ほだ木から小片を作り、これを原木にはめ込む「埋めぼた法」が考案されました。昭和の初め、椎茸菌糸の培養が成功し、昭和18年には「種駒」発明。諸塚でも、戦後の20年代、この種駒の普及により人工栽培が進み、今日に及んでいます。

《諸塚語録》

うみゃ～～！！：(感嘆詞)おいしい～～！！

なば：(名詞)しいたけ 【活用例】なば木(椎茸原木あるいは原木となるクヌギなどの広葉樹)、なば木山(クヌギやナラなど椎茸原木となる木を植林した山林)、なばとり(しいたけ採集)

【やまの風 まちの風】「ちょっとあんた、私いいこと思いついたっちゃんが！！」と、ある農家さんが教えてくれた、誰でも簡単につくれるほうれん草のゴマ和えの作り方。(→)

●昔ながらの作業の様子

1. 野外における作業



2. 伏込み方

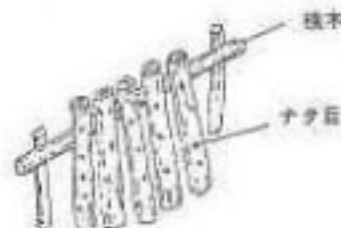


(古い原木は立ておく)

3. ほだ木の漚水と引き上げ



4. ほだ木の立込み方



(出典：諸塚村史1989)

お知らせ もろっこほうすのお引っ越し

特産品販売所「もろっこほうす」はしいたけの館21 2階に移転して営業中です。(2011.2.1~)

お食事・物産販売・観光案内と諸塚村の顔ともいえる役割が同じ建物内に集合することになりました。諸塚へお越しの際には、ぜひまず「しいたけの館21」へお立ち寄りください。季節の自然や美味しい食べ物など、最新情報を私たちがお教えします！

諸塚での、素朴な楽しい旅の始まりは「しいたけの館21」から。

[しいたけの館21 館内のご案内]

2階：特産品販売所「もろっこほうす」

1階：レストランどんこ亭

観光案内所（観光協会事務局）

お手洗い

地階：ホール

オススメ情報

この冬どれの山猪は絶品です！
こんなに味の深い肉は他に
ありません。

県道50号沿いにひときわ目立つ屋根！



お客様をお迎えするエントランスは、
建物向かって左側です



店内風景



もちろん諸塚しいたけが
た〜くさん！！

生まれ変わる中心商店街

諸塚村の中心部、国道327号の水防災事業工事がこの冬、本格的にスタートしました。

平成17年9月6日。台風14号によって、100年に一度ともいわれる大雨がもたらされました。諸塚村周辺では1,000mmの雨が降り、中心商店街を濁流が呑み込みました。また、村内各所で道路を塞ぐ土砂崩れもありました。多くの方々の暖かい励ましやご支援もいただき、復興をすることが出来ました。

今回改めて、災害に強い街に生まれ変わるために国道327号沿線のかさ上げ工事がはじまります。工事完了までの約4年間はご来村の際に様々なご不便をかけるかもしれません。皆さまにはご理解とご協力をいただけますよう、よろしくお願い致します。新たに生まれ変わろうとする諸塚の商店街にも、どうぞご注目下さい。

(→つづき) ①ほうれん草をゆでる。②すき焼きのたれとすりゴマをかけて和える。③出来上がり。本当に簡単そしておいしい。アイデア次第でレシピはぐんと広がりますね。

第26回 諸塚山 山開き

～天孫降臨伝説の霊山・諸塚山～ 自然の神秘を感じてみませんか？

日時：平成23年 3月6日(日) 9時受付開始
会場：諸塚山、飯干緑地広場 雨天決行

開会式典は10時スタート。テープカットならぬウッドカットの後、登山開始となります。山頂では、ヘリコプターでの記念撮影があります(荒天時は中止)。

下山後の交流会会場には、特産品販売や甘酒のふるまい、アトラクションが行われます。先着順で登山記念のペナントプレゼントも実施します。

前日からいかがですか？

ゆったり余裕のスケジュール前日入りプラン

プランA 農家民宿暮らし体験

〔1泊2日プラン 先着20名〕

宿泊：くぬぎの里農家民宿

集合：5日 12:30 しいたけの館21

内容：村内巡り、前夜祭、山開き参加

参加費：9,000円/人(1泊3食)

プランB フォレストピア森林体験

〔前日諸塚神社元宮登山プラン 先着10名〕

宿泊：諸塚山溪流の里 ログハウス

集合：5日 13:00 飯干公民館

内容：諸塚神社元宮まで登山、交流会

参加費：6,000円/人(1泊2食 自炊式)

両プランとも、先着順で定員になり次第締め切り
お問い合わせ・申し込みはしいたけの館まで

●今後の予定・お知らせ

3月6日 第26回諸塚山山開き
前夜祭企画も行います！

3月13日 森林認証祭り
森の恵みの感謝祭

3月28日 吉野宮神社大祭
県北三大祭りの1つで、平安時代から続く由緒あるお祭りです。薩摩琵琶奏者北原香奈子さんの公演も。

4月17日 諸塚クロスカントリー大会

●季節の見所・オススメ情報

3月1日より6月分のログハウス予約受付開始します！春休み・GWにご利用いかがですか？

春を告げるフクジュソウ(1ページ写真)は、例年3月上旬ごろまで開花が見られます。

山菜摘みの季節も、もうまもなく！

【編集後記】

◆南川神楽に弟子入りをして3年目になりました。1月から約1ヶ月間練習に通い、2月5～6日の神楽奉納では2番神楽を舞わせてもらいました。毎年新たな気づきがある神楽の世界、まだまだ奥が深いんです。(田)

◆立春を過ぎて、一度温かくなりました。暦って本当によくできてるものですね。身体を動かしやすい季節になってきたからか、つぶやき休みがちだったtwitterを省エネ型で再始動しています。年末年始の栄養過剰補給を少しずつ燃料に換えていきます！(健)

◆数年ぶりの大雪の新年を迎え、積雪で元日の挨拶回りもできませんでした。その後も、新燃岳の噴火、鳥フルと次々と大変なことが起こっています。人間の生活が自然との共生で成り立っていることを改めて感じます(矢)

〈発行元〉

〒883-1301 宮崎県東臼杵郡諸塚村 大字家代3068

しいたけの館21内 諸塚村観光協会事務局

電話 0982 - 65 - 0178 FAX 0982 - 65 - 0189
(毎週水曜休館)

Mail ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp

諸塚村HP <http://www.vill.morotsuka.miyazaki.jp>

諸塚村ブログ <http://blog.morotsuka.jp>

最新情報はツイッターでも発信中！@MorotsuKanko

全村森林公園 諸塚
百影の森づくり

諸塚村